マリンシティ泡瀬　「泡瀬地区埋立事業」

～人･未来･世界を結ぶ海洋都市の実現に向けて～

〈事業の目的〉
中城湾港（泡瀬地区）埋立事業は、沖縄本島中部東海岸地域の活性化を図るための経済振興策として、地元からの強い要請に基づき、国･県･沖縄市が一体となって取り組んでいるもので、国の「沖縄振興計画」にも本事業の推進が位置づけられています。
事業は国際ﾘｿﾞｰﾄ拠点、海洋性ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ拠点、情報･教育･文化の拠点を形成することにより、中部圏の魅力を高め、基地依存経済からの脱却と那覇都市圏との地域間格差の是正を図り、県土の均衡ある発展に寄与するものです。
さらに、本事業は、県の主要施策である特別自由貿易地域（特別FTZ)を支援する中城湾港（新港地区）の港湾整備とも密接な関係があり、新港地区への企業誘致を促進し、本県経済の振興を図る上でも早急な整備が必要です。

人が集まることは地域の発展につながります。人工島は新たな人を呼び込む地域の起爆剤となり、泡瀬地域の将来の発展につながると確信しています。海水浴場のない沖縄市にとって、新しい島の人工ビーチは大きな魅力です。

泡瀬復興期成会
事務局長　普久原　朝健氏

環境の保全と創造に配慮した事業です

出島方式の採用により泡瀬干潟の保全を図ります

･環境に配慮した人工島（埋立面積187ha)です。

･第Ⅰ区域の埋立計画で消失する干潟面積は、全面積の1%未満です。
･第Ⅰ、第Ⅱ区域を合わせた全体の埋立計画でも、約80%の干潟が残ります。

人工島と対岸域の一体的な環境整備を行います

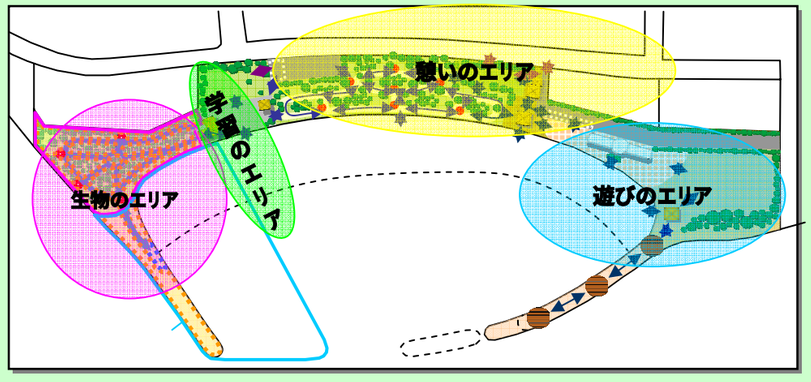
･人工干潟を創造し、トカゲハゼやクビレミドロなどの希少生物の保全を図ります。

･人工島の対岸域に位置する比屋根湿地の環境整備を図り、水質の浄化や環境教育の場の整備につとめます。

･人工島や比屋根湿地には野鳥園の整備を行い、自然観察の場として活用します。

生物と人が共生する人工海浜を整備します

･人工島南側には人工海浜を配置し、地域に根ざした海洋性レクレーション空間を整備します。
･オカヤドカリ等の生息環境に配慮して、自然観察や環境教育の場として活用します。



沖縄市観光協会
会長　比屋根　清一

一年を通じてヨットや釣りなどのマリンレジャーの需要がある。最近注目を浴びている、ビーチサッカーやビーチバレーの会場として県総合運動公園と一体とし、世界クラスの大会も誘致できる。平成8年に「スポーツコンベンションシティ宣言」をした沖縄市にとってなくてはならない施設になるだろう。

詳しくはこちらまで

内閣府沖縄総合事務局
http://www.dc.ogb.go.jp/nakagusukuwankou/
沖縄県土木建築部
http://www.pref.okinawa.jp/kowan/
沖縄市東部海浜開発局
http://www.city.okinawa.okinawa.jp/